

メロングリソディン

媒体名	健康日本	掲載日	2011年 8月号
タイトル	世界唯一の新しい抗酸化素材		

図1 DNAを活性酸素から保護

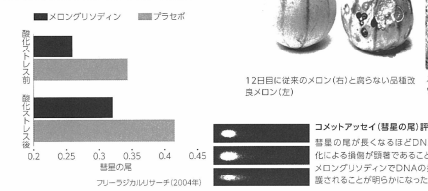


図2 酸化ストレス指標の測定

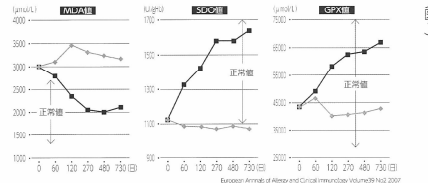


図3 頸動脈内中膜厚(IMT)の測定

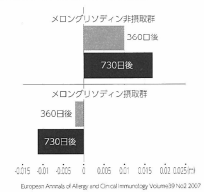
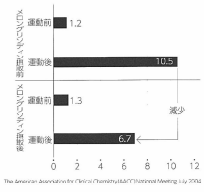
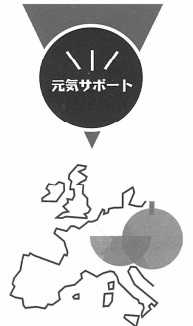


図4 ヒト運動による血中抗酸化物質の低下効果



世界唯一の新しい抗酸化素材 メロングリソディン

取材協力：株式会社ニュートリション・アクト
 TEL: 03-5475-7313 <http://www.nutrition-act.com>
 国際学術サイト <http://www.glisodin.org>



3種類の抗酸化酵素の働きを高める

活性酸素が体内の細胞を破壊して体に悪影響を与えることはよく知られるように、その活性酸素を消去する働きがある抗酸化成分の存在も広く知られるようになってきた。抗酸化成分は植物の色素に含まれていることで、色の濃い植物などが注目されていますが、それよりも高い抗酸化能力を発揮する仕組みが人の体には備わっています。それはSOD(スーパーオキシドディスムターゼ)、G-Px(グルタチオンペルオキシターゼ)、カタラーゼという3種類の酵素です。

しかし、これらの抗酸化酵素は加齢によって減り、抗酸化力が低下していき、その低下した抗酸化力を補うには、抗酸化システムの頂点に立つ3種類の酵素の働きを活性化させることが必要です。

その働きを高める機能成分として注目されているのが、南フランス産メロンから抽出された植物SODのメロングリソディンです。

必要なところに運ぶ特殊な構造

メロングリソディンは、小麦たんぱく抽出物のグリブタンと結合して特許製法で作られており、胃酸の影響を受けずに小腸まで運ばれます。

そして、腸内に消化吸収されることで、免疫細胞が活性化され、その免疫細胞のマクロファージに結合されます。メロングリソディンと結合したグリブタンは抗体を反応させる抗原として認識され、マクロファージから免疫細胞の細胞の働きを活性化させるサイトカイン

世界で発表される豊富なエビデンス

世界で発表される豊富なエビデンス。メロングリソディンが優れた働きを発揮する理由は、以下にあります。

その原材料となるのは、従来種を改良してSOD能力を高めた品種改良メロンです。一般のメロンは収穫してから4-5日で腐ってしまいうまくして、品質改良してオーガニック種は、なかなか熟せず、1週間たっても食べにくく使えません。この違いは、品種改良メロンにはSOD酵素が豊富に含まれているからです。

この過程の中で、抗酸化酵素群を誘導・産生することがフランスのパスツール研究所などの研究によってわかり、特に摂取後2-3週目からその効果が急激に上昇することが確認されています。



表紙